



Tomo Suzuki Japan

報道関係者各位
プレスリリース

2011年9月4日

トモ・スズキ・ジャパン有限会社

**「ヨコハマトリエンナーレ 2011」出品記念！
アピチャッポン・ウィーラセタクン監督『ブンミおじさんの森』
ヨコハマ特別上映**

トモ・スズキ・ジャパン有限会社（本社：東京都渋谷区、社長：鈴木朋幸）は、タイの美術家・映画監督、アピチャッポン・ウィーラセタクンの「ヨコハマトリエンナーレ 2011」（以下、「ヨコトリ」）参加を記念して、同氏が製作・監督し、2010年「カンヌ映画祭」で最高賞となる「パルムドール」を受賞した長編映画『ブンミおじさんの森』を横浜・みなとみらいのブリリア ショートショート シアターにて特別上映いたします。

「ヨコトリ」とは、横浜の各所を会場に3年に一度開催されるアートの祭典で、今回は日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）の2階に、アピチャッポンの作品「プリミティブ」が日本で初めて展示されています。

作品「プリミティブ」は、ビデオ7点（うち1点は2画面シンクロのため、合計8画面）からなる映像インスタレーションで、2009年ドイツ・ミュンヘンの「芸術の家（Haus der Kunst）」にて初出以来、イギリス・リバプールの FACT（Foundation for Art and Creative Technology）、フランスのパリ市近代美術館、アメリカ N.Y のニュー・ミュージアムなどに陳列されてきました。空間にあわせて形態を変えられるのが特長で、「ヨコトリ」では、2009年東京・谷中のギャラリー、SCAI THE BATHHOUSE におけるアピチャッポン個展「Native Land」で発表した大判写真2点も加えて展示中です。



そのインスタレーション作品「プリミティブ」は、映画『ブンミおじさんの森』と兄弟の関係にあり、両方ともタイ東北地方にある小さな農村、ナブアにて同じクルーが撮影しています。1960年代に共産主義者のアジトと見なされ、タイの国軍から弾圧されたナブア村は、武力衝突の結果、集落から若い男が消えた、と聞いたアピチャップンが、村の記憶を映像化すると同時に、過去とは無縁であるかのように今を生きる10代の男子を記録したのが「プリミティブ」です。一方、余命わずかな老夫が森の中で前世や来世と出会うフィクションを、ナブア村でロケ撮影したのが『ブンミおじさんの森』になります。

両作品とも、アピチャップンが約3年に渡り取り組んだ「プリミティブ」プロジェクトで主要な位置を占めるにも関わらず、美術と映画という、似て非なる業界の慣習、及び、権利上の理由から、同時期に同じ場所での発表は世界的にも希でしたが、この度、横浜にて映像インスタレーションと映画を関連させて紹介する機会に恵まれました。

なお、映画の上映会場となるブリリア ショートショート シアターは、米国アカデミー賞公認の「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア」と連動したショートフィルム専門のブティックシアターです。2007年に同映画祭でアピチャップン監督の短編映画『輝ける人々』が招待上映された関係から『ブンミおじさんの森』を特別に2回限り上映する企画となりました。

【お問い合わせ先】

トモ・スズキ・ジャパン有限会社 広報・宣伝部

電話 : 03-5468-7172 (代表)

e-mail : mail@tomosuzuki.com

住所 : 150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-3-18 ビラ・モデルナ C-403

<http://www.tomosuzuki.com/>



「ヨコハマ トリエンナーレ 2011」 出品記念！
アピチャッポン・ウィーラセタクン監督『ブンミおじさんの森』
ヨコハマ特別上映

- 【日時】 9月18日(日)17:10～
9月25日(日)17:10～ (2回限定)
- 【会場】 ブリリア ショートショート シアター
220-0012 横浜市西区みなとみらい5-3-1 フィルミー2F
みなとみらい線「新高島駅」徒歩5分
みなとみらい線「みなとみらい駅」徒歩6分
*「ヨコトリ」会場の横浜美術館より徒歩5分
電話：045-633-2151
<http://www.Brillia-SST.jp>
- 【料金】 当日／一般：1,800円、学生：1,500円、
シニア・小人・HC・年パス：1,000円
*「ヨコトリ」のチケット持参の方は割引料金：1,500円
前売／1,500円均一(前日22:00までWEB・窓口で販売)
- 【WEB 前売券】
<http://www.sstheater.jp/sst/schedule/indexPre.php?dsType=pre>
- 【特設サイト】 <http://www.apichatpong.jp>
- 【企画・制作】 トモ・スズキ・ジャパン



Tomo Suzuki Japan

2010年「カンヌ国際映画祭」パルムドール（最高賞）受賞
『ブンミおじさんの森』

2010年／イギリス＝タイ＝ドイツ＝フランス＝スペイン／カラー／1:1.85／
Dolby SRD／114分／35mm（ヨコハマ特別上映はBlu-ray）

腎臓の病に侵され、死期が迫ったブンミ。彼は亡き妻の妹らと呼ばせ、ラオスとの国境に近い自分の農園に戻ってきた。ある夜、食卓を囲んでいると、既に死んだはずの妻が現れる。そこに、行方不明だった息子が、なぜか猿に姿を変えて登場する。

愛する家族らと、不思議な再会を果たしたブンミ。いよいよ逝く時とばかり、仲間と一緒に森の中に入ってゆく。そこでは前世や来世が交錯し…。

製作・脚本・監督：アピチャップン・ウィーラセタクン

製作：サイモン・フィールド、キース・グリフィス、シャルル・ド・モー

出演：タナパット・サーイセイマー、ジェンチャー・ポンパス、サックダー・ケアウブアディー、ナッタカーン・アパイウオン

提供：シネマライズ

配給：ムヴィオラ

字幕：齋藤敦子

協力：SCAI THE BATHHOUSE、トモ・スズキ・ジャパン



アピチャッポン・ウィーラセタクン（美術家・映画監督）

1970年バンコク生まれ。タイ東北部のコンケーンで育つ。両親はともに医者で、少年時代は病院が遊び場。

幼少時からアートや映画に興味を持ち、映画館に通いだす。地元のコンケーン大学で建築を学び、24歳の時にシカゴ美術館附属シカゴ美術学校(School of the Art Institute of Chicago)に留学、映画の修士課程を終了。シカゴでは、アッバス・キアロスタミ、ハウ・シャオシェン、エドワード・ヤンらの映画に関心する一方、ジョナス・メカス、マヤ・デレン、アンディ・ウォーホルらの実験的な作品から、商業映画とは違うスタイルを知り、個人的な映画をつくることを決意。

1999年「山形国際ドキュメンタリー映画祭」で短編映画『第三世界』が上映され、国際的な映画祭を初経験。同年、映画製作会社、キック・ザ・マシーンを設立し、2000年に完成の初長編『真昼の不思議な物体』が翌年「山形国際ドキュメンタリー映画祭」でインターナショナル・コンペティション優秀賞、NETPAC特別賞を受賞。以来、すべての長編が「東京フィルメックス」で上映され、最優秀作品賞も2度獲得。

「カンヌ映画祭」も常連で、2002年『ブリスフリー・ユアーズ』がある視点賞、2004年『トロピカル・マラディ』は審査員賞を受賞。2008年には、ション・ペン審査委員長のもと、コンペティション部門の審査員を務める。最新作『ブンミおじさんの森』が、2010年のパルムドール（最高賞）受賞！タイ人初の快挙となり、母国とフランスで勲章を授与される。

アートの分野でも世界的に活躍。日本では、2008年 SCAI THE BATHHOUSE で初個展を開催後、広島市現代美術館や東京都現代美術館、東京都写真美術館などで展示。現在、「ヨコハマ トリエナーレ 2011」に出品中。